



“そのままに”
川柳

今月のお題

半 分

楽しみも 苦労も常に はんぶんこ ぼこべん	人生も 半分過ぎれば 矢のごとし 真琴	半分の 言葉ほどよい 空気かな チロ	ご祝儀は 義理を半分 入れて出す 月丘夢子	注文は 鰻井一つ 老夫婦 浮草	ケーキ食べ なかよしこよし 半分子 ジョージ	半分に 腰をかがめて 田植え時 森本千代美	店長と 半額シールで もめる嫁 早乙女勇樹
-----------------------------	---------------------------	--------------------------	-----------------------------	--------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------

■応募方法
 住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールで広報広聴係へ。
 〒509-5192 (住所不要) ☐ koho@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111(内線185) / FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。

7月1日号の投稿募集
 お題は「口下手」です (1人1句)。
 締め切りは6月19日(火)です。



わたしの ほやねさん

私には育児の悩みを気軽に打ち明けられる相手がいませんでした。自分がどれだけ悩んでいても誰かに「助けて」と言えず、「一人で何とかしなければ」と思っていたのです。育児の悩みが原因でイライラしていることを夫に責められ、さらに気持ちが張り詰め、子どもたちを必要以上に叱り付け自己嫌悪に陥る日々でした。

そんな時期に3歳児健診がありました。アンケートで「身近に相談できる人がいるか」との質問に「いいえ」と答える私、すると保健師さんが優しく問い掛けてくれました。私はなぜだか涙があふれて止まりません。辛い、苦しい、もう無理かもしれない。心の奥の気持ちも全部出てきました。その場で悩みを打ち明け、その後も保健師さんから電話をもらって何度も話を聞いてもらいました。今思えば、本当に限界で最悪の事態になる前に「助けて」と言えたのは、吐き出す場所があったからだと思います。

悩みを打ち明けても、抱える問題が即解決とはなりません。でも、共感してもらえたことが何よりうれしかったです。悩んでいる自分でも大丈夫と思えました。誰にも相談できず苦しんでいた私に声を掛け「そうだね」と受け止めてくれた保健師さん。彼女が私にとってのほやねさんでした。

ペンネーム かりんとう(土岐津町)



30タエビク
花のほやねさん

募集





掲載の「わたしのほやねさん」ストーリーの他、市内に実在する「まちのほやねさん」を募集します。あなたがこれまでに会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法
 住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
 〒509-5192(住所不要) ☐ machisui@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111(内線186) / FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。